(七)「俗曲改良ノ事」

曲 トヒ 交日新ニ際シ彼此ノ文物相融通スルノ今日ニ在テナホ此ノ如キ音曲 曲ノ淫邪ナルハ誘惑ノ途ヲ開キ徳教ノ涵養ヲ妨害スル是其三也、 淫佚ニ導キ為メニ雅正善良ナル音樂ノ振興ヲ妨害スル是其二也、 教ノ酖毒ヲ為ス是其一也、 其歌曲ノ成立ハ今日最モ下流ノ極ニ達セリ是ヲ以テ其弊害勝テ言フ 識者社會ノ一大問題ト為レリ或日俗曲ハ擧テ之ヲ禁断スベシ或日俗 スベカラザルニ似タリ然レバ則チ之ヲ處スルノ方略如何ハマタ既ニ タタトヒ盡善盡美ノ教育ヲ布クトモ稍赤手ニ狂瀾ノ勢アリ功豫メ期 聽クナキニアラザルモ此曲ヲ學ビ此曲ヲ聽カザレハ殆ド世間ニ歯ス ナシ是ヲ以テ上流ノ婦女ニ在リテハ間々口ヲ掩フテ演シ耳ヲ掩フテ **ヲ正路ニ要メンヨリハ寧ロ淫野ノ音曲ヲ聞テ目前ノ快ヲ取ラザルハ** 曲ヲ勉学セシメザルハナクマタ雅正善良ナル音樂ヲ聽テ心身ノ修養 父母ノ困窮ニシテ其子女ヲ學校ニ送ル資力ナキモ朝ニタニナホ此俗 勢アリ故ニ人民ヲ猥褻淫行ニ誘致スルハ職トシテ此俗曲ノ然ラシム 日民間流行ノ甚タシキモノニシテ下民ノ風俗ハ殆ト茲ニ根據スルノ 委スルヨリ音樂ノ本旨ニ悖リ人事至底ノ用途ニ帰シ隨テ野卑ニ流 、能ハザルノ弊勢ヲ致セリ故ニ此淫曲ニシテ此勢力ヲ逞スル間ハタ 、トコロトスルモ敢チ過言ニアラザルベシ即チ今ノ人情ヲ察スルニ 、盛ニ行ハルトハ國家ノ体面ヲ毀損スル是其四也、 カラザルモノアリ試ニ其一二ヲ述ベンニ俗曲ノ淫奔猥褻ナルハ風 ハ下等社會ノ樂ト為シ中人以上ニ用フベカラズ或日舊来ノ俗曲 本邦俗曲ハ古来識者ノ為ニ放擲セラレ擧ケテ之ヲ無学ノ輩 雅正善良ナル音樂ヲ與ストモタトヒ千百ノ校舍ヲ連ヌルトモマ 俗曲ノ旋律淫風ヲ極ムルハ士人ノ趣味ヲ 然ルニ俗曲 ナノ手ニ ハ今 外

> 聖治ニ際シ音樂ノ勃興ヲ致シ掛務百出殆ド苦難ヲ極メタリ故ニ此改 害ノ甚ダシキニ於テヲヤマタ之ヲ一朝ニ全廢シテ之ニ易フルニ新曲 嚮ヒ却テ淫樂ノ勢炎ヲ加ヘントスルノ恐レアリ是此改良ニ躊躇シタ 良ノ為ニ未ダ曾テ十全ノ精力ヲ傾注スル能ハズ且従来俗曲現及ノ害 ヲ以テセントスルモー朝全廢ノ件タル已ニ擧グベカラザルノ難事ナ りハ勢其害ヲ上流ニ及ボス事ナキ能ハズ況ンヤ下民ノ間ニ於テ其弊 民ノ樂トナシテ中人以上ニ用ヒザラントスルトモ此樂曲ノアラン限 朝世間ニ流布セバ蠢爾タル愚民其改否善悪ヲ問ハズ靡然トシテ風 ノミニシテ既ニ頗ル深大ヲ極ムルノ際マタ本掛此俗曲ニ渉ルノ説 ニ着手セル所以ナリ然ルニ本掛創置ノ日タル尚浅クシテ昇平無事ノ シムルノ最良好擧トス是即本掛カ茲ニ見ルトコロアリテ已ニ此改良 ナカルベシ改良ハ所謂毒ヲ以テ毒ヲ救フノ策ニシテ之ヲ誘導前進セ ルニ新曲ヲ起スノ件モマタ頗ル難事ナリ故ニ此説二難ヲ併受スルノ モ之ニ易フル良樂ナキ以上ハ又其害ヲ他ニ發出セン事疑ナシ之ヲ下 クベカラザルノ根幹ヲ成セリ加フルニタトヒ現存ノモノヲ禁ズルト 之ヲ嚴禁セントスルトモ如此民心ニ蟠屈シタルモノハ已ニ容易ニ抜 スルノ方策ナシトセンカ日否俗曲ハ之ヲ改良スルノ宜キニ如クモ 大業ニシテ難中ノ至難ト云ハザルベカラズ然ラバ則チ俗曲ハ之ヲ處 ニアラザレドモマタ皆言フベクシテ行フベカラザルノ説ナリタトヒ 時 ニ之ヲ廢絶シテ新曲ヲ撰定スベシ云云ト此等ノ諸説各一理ナキ

デ他ノ一方ニ向テ俗樂ノ事ニ及ボシ十分ノ精力ヲ盡スベキノ機ニ達

リ又歌曲編制ノ事ニ至リテモ諸員ノ熟練前日ノ比ニアラズ故ニ進ン音樂ノ基礎定立シ一方ニ向テハ雅正ノ趣味ヲ養成スルノ法ヲ設ケタ

ル所以ナリ然リト雖モ今日ニ至リテハ本掛ノ事務旣ニ緒ニ就キ學校

ト欲スル所以ノ方法ニ及ブベシ来着手セル俗曲改良ノ方法ヲ左ニ陳述シ次ニ此改良歌曲ヲ實施センセリ是本掛カ益ゝ此改良ヲ振作勉勵セントスル所以ナリ故ニ先ツ従

ラザル 作ヲ存スルモノアリ其 製起稿ニ着手セリ故ニ歌詞ハ全体ノ改作ニ係ルトイヘドモ曲調 ガ改良ヲ處分シ其全部可ナリト認ムルモノハ先ツ直チニ其歌詞 ヲ審議討究シ然後之ヲ箏胡弓三味線尺八等ニ合セ實地ノ演奏ヲ以テ 掛員ノ評議ニ付シ其歌詞 措キ第二歩ニ譲リ其普通 曲ハ上流ノ社會ニ行ハルヽノ最モ廣クシテ其弊害ノ最モ少ナキヲ以 ニ属セリ而シテ其成曲稍可ナルニ以テ一部ノ改良ヲ要スルモノハ之 更ニ反覆討究シ其成歌成曲ノ何如ヲ實察シ歌詞 トナルベキモノヲ検出撰拔セシメ其報告スルトコロヲ以テ之ヲ定日 トス此改良ノ順序ハ先掛員中筝曲ニ熟スルモノ及筝曲指南ヲ業トス 稍純良ナルモノヽ如シ故ニ此等ハサラニ考フルトコロアリ姑ク之ヲ ヲ以テナリ蓋シ筝曲諸曲ヲ審察スルニ筝曲中組歌ハ最モ古代ニ属シ テ其改良ノ一日モ猶豫ス可ラズシテ其成果ヲ検スルノ最モ容易ナル 従来着手セルトコロノ改良ハ筝曲ヲ以テ第一着手ト為セリ是即チ箏 トス筝曲中ニ於テモ其作愈古キモノハ其弊害愈少キヲ見ル是ヲ以テ 多少浅深ノ度ヲ異ニスルモノアリ即俗曲中其弊害ノ至少ナルハ箏曲 皆萬種徹頭徹尾然ルモノニアラズ其中婉美ノモノモ少カラズ弊害モ モノ等数名ヲシテ無数ノ箏曲中ニ就キ曲品好佳ニシテ改良ノ材料 抑俗曲ハ上文ニ反覆スル如ク固ヨリ淫野ヲ極ムルトイヘトモ又悉 、ノミナラズ曲質モ到底改良ノ望ナキモノハ此ニ於テ全ク廢按 部 ノ意匠文義 般ノモノヲ取リテ之ヲ改良スルヲ第一歩 ノ改作ヲ謀ルモアリヒニシテ其歌稿 ノ處在曲調ノ善悪旋律ノ邪正等 ノ鄙猥ニシテ取ル可 ハ舊 ノ改 ノ成

風韻 シテヨク曲調ニ協和スルニアリ故ニ此俗曲改良ノ事業ハ獨リ歌詞歌 フルニ純良ナル旋法ヲ以テシ特ニ其出處撰製ノ由来正シキモノヲ取 テ之ヲ定日掛員ノ評議ニ付シ以テ之ヲ改良撰定スル事ナホ箏曲改良 ク本掛員其他此道ニ熟セルモノヲシテ材料ヲ検出セシメ其報告ヲ以 ルモノヲ索メテ以テ此改良ノ材料ト為セリ此改良方法モ前述スル ル太ダ難シトイヘドモ本掛ニ於テハ汎ク古今ヲ渉獵シテ弊害至少ナ 以テ其古物ノ今日ニ傳ハラザルハ最モ遣憾ト云フベシ故ニ其曲ヲ得 タ隨テ其時々時ノ用ニノミ属シ敢テ之ヲ重用永存シタル事稀ナル 起シタルモノナレバ時ニ臨ミ變ニ應シテ作出セルモノ多キニ居リマ ヨリ變出セルモノニテ狂言等ノ幕間ヲ繕ヒ又ハ技態ヲ助ケンガ為ニ 害ヲ極メ愈古キハ愈純良ナルヲ覺ヘリ然リト雖モ長唄ハ元来能狂言 ハナホ採ルベキトコロアルモノニ似タリ是マタ近代ニ降テ益々其弊 ル セリ第二ニ着手シタルハ長唄改良是ナリ長唄モ世ニ行ハルトノ盛 シ總シテ歌作ハ嫺雅優美ノ徳性ヲ涵養スルノ主意ヲ基ト為シ併セテ キヲ得ザルモノハ更ニ歌稿ヲ属シテ之ヲ評論討議スル事マタ故ノ如 ヲ衆多試唱ノ方法ニ處シ否ルモノハ再三再四修正ヲ加ヘナホ其宜 評論ヲ盡シ校正删訂ヲ加へ歌曲協和ノ宜シキヲ得タルモノハ取テフ ル 心情ヲ養ヒ其詞句理義ヲ離レテ自ラ趣味ヲ保チ文章ノ語路流暢ニ ラ定規トセリ凡ソ唱謡 ドモ其呂律ノ旋法ニ於テ不正ナルトコロアルハ盡ク之ヲ刪除シ易 .順序ニ於ケルカ如シ此改良ハ都テ字句文章ノ改正ハ勿論ナリトイ モノニシテマタ多少弊害アルヲ免カレズトイヘドモ俗曲中ニ於 ニ及ンデハ更ニ會議ニ付シ再ビ諸樂器ニ合セ實地演奏ヲ以テ反覆 ノ髙致ニ務メ曲調ハ卑猥乱野ノ旋法ヲ禁ジ清純雅正ナルヲ主 ノ主眼トスルトコロ ハ呂律ノ旋法雅正ニシ ヲ

中数曲ハ既ニ去明治十五年以来音樂取調成績報告ノ際等ニ於テ大方 来ヨリ此困難ヲ凌キ已ニ改撰旣成ノ分無慮数十曲ノ多キヲ致セリ此 テ言語文字ニ委スベカラザル困難ヲ経ル所以ナリ然リトイヘトモ従 如ニ由テマタ自ラ世ニ行ハルトト否トヲ致スモノアリ是此改良ニ於 百言ノ歌詞ト数十段落ノ曲調トヲシテ相協和セシメ以テ一曲ヲ完成 ト對峙セシメ以テ愈其妙趣ヲ發達シ音樂ノ音樂タル所以ノ真利正用 ル以上ハ西樂ノ理ヲ斟酌シ以テ之ニ和聲ヲ付シ歐洲各國普通ノ歌曲 スルニ在リ且タトヒ理論上ハヨクコヽニ適合スルモ其曲質風致 章ヲ改良スルニ止マラズマタ獨リ旋律曲調ヲ改良スルニ止マラズ数 公聴ニ供シタルモノアリ且改良俗曲ハ其固有ノ國質ヲ失ハシメザ ノ何

ヲ大成セシメントス

歌曲 トコロナリ由是観之一朝此改良歌曲ヲ公行スルニ至ラバ新異ヲ好ム 奏スベキハ掛中ニ於テ巳ニ之ヲ試施スルノ際ニ徴シテ疑ヲ容レザル リ天下普通ノ樂譜法ニ由テ迅速習得ノ簡法ヲ立テタリ故ニ相傳相受 視ルトコロト音声ニ發シテ耳ニ聞クトコロト彼此一致ニ帰スル所以 良ノ俗曲ハ呂律ノ旋法ヲ解剖シテ之ヲ樂譜ニ製シ紙上ニ寫シテ目ニ 該改良諸曲ヲ實施セント欲スル所以ノ方法ヲ略述スベシ蓋シ本掛改 一付シ斯道適宜ノ教科書ヲ公行スルヲ得バ改良諸曲 、比ニアラズ今従来内撰ニ係ル改良諸曲ヲ以テ裁可ヲ仰キ之ヲ印行 方法ヲ設ケ以テ之ヲ教授スル者ノ便ト之ヲ學習スル者ノ利トヲ謀 、速ナルマタ前日白文ノ歌書ニ就テ演曲ヲ練習スルノ迂遠徒労ナル 偖従来着手セル俗曲改良ノ方法ハ先ツ上述スルガ如シ因テ是ヨリ ト教育ノ稍進歩セルヨリ致セル風潮トニ相投シテ必ズヤ此改良 ノ流行セン事預メ之ヲト知スルニ足レリ且此改良歌曲ヲ實施ス ノ實施上駿功ヲ

> 樞要ノ権機ヲ握有スル者多キニ居レリ故ニ彼改良諸曲ヲ公行スル 風教ノ妨ヲナスモノヽ如キハ嚴令ヲ下シテ之ヲ禁断スルニ至ルモ可 **實施大略確定スルニ及ンテハ在来ノ諸曲ニシテ其害毒最甚シクシテ** 数ナホ僅少ニシテ人心ヲ維持スルニ足ラズ故ニ今ニシテ此改良ヲ擴 **實施スルノ計畫ヲ為サントス愈此實施ヲ公許スルトキハ則旣成ノ曲** 京女子師範学校生徒等ニ施行スルヲ始ト為シ漸次従来音樂ヲ業トセ ヲ鞏新スルニ至ル事亦期シテ待ツベキナリ 良法ヲ制定セバ淫曲ハ益其勢力ヲ失ヒ良曲ハ愈普及シテ音樂ノ局面 ナルベシ又音曲ヲ業トスル者ノ取締法ヲ設ケ其事業ヲ監督彈察スル ノモノヲ發行シマタ憾ヲ千歳ノ後ニ遺スナキ能ハズ是此改良ノ継續 充シ静思審撰ノ材料ヲ畜積セザレバ流行騒忙ノ際ニ乘ジテ浅日急成 ルモノニ傳習ヲ許スノ途ヲ開キ以テ闔國ニ及ボスノ方法ヲ設ケ之ヲ 日ニ至ラハ外ニ之ヲ該諸員ノ私門ニ開施シ内ハ之ヲ本掛傳習生及東 1 ニ従事スル諸員是ナリ此等ハ私ニ門戸ヲ張テ俗曲ヲ教授スルヲ專門 ル ハ勿論サラニ之ヲ擴充セザルベカラザル所以ナリ然リ而シテ此改良 スル者ニシテ東京府下ハ云ニ及バズ全國ニ於テモ此道ニ於テ頗 ノ途ニ方テ特ニ其便宜ヲ得タルモノハ本掛ニ出仕シテ現實此改良

(『音監經伺書類上下、 音樂取調掛成績申報書』明治十七年

俗曲改良ニ係ル経費ノ事

ニヨリ當年度ニ在リテハ此上聊モ流用スベキ費目アル事ナシ故ニ俗 給貸ニ充タル費目中ヨリ一時融通流用セルトコロニ由レリ然リト雖 ニ之ヲ今日ニ維持シタルハ前年度中傳習生ノ募集延期セシニョリ其 ・モ其後傳習生募集アリテ其給付ノ費目ハ夫々支消セザル可ラサ 俗曲改良ノ件ニ係ル費目ハ従来豫算外ニ属シ更ニ其出途ナシ然ル 161

シ候へハ特別ノ御詮議ヲ以テ本按御裁可相成度候也 経費出途ノ有無ニ繋リ此経費出途ノ有無ハ實ニ本按裁定ノ何如ニ属 望ニ堪ヘザルトコロナリ抑我邦音樂ノ興廢民俗ノ改否、教化ノ隆替 テ前陳ノ條項ヲ篤察セラレ本年度ヨリ該費目トシテ金壹千圓ヲ別途 ヲ印行シ教授ノ順序方法ヲ制定シ俗曲改良ノ基礎ヲ確立セントス依 業ヲ取リ益、歌曲ノ改良ヲ謀リ改良歌曲ノ撰成ルニ随ヒ其教科用書 稍之ヲ得ルニ幾シ故ニ今日経費出途ノ一項確立セバ是ヨリ一擧ニ此 1 レ所要ノ費額ハ實ニ些少ナリトイヘトモ所要ノ人ヲ得ルハ最モ難 ヲ興スノ日断ジテ之ナシト云モ可ナラン豈慨嘆ノ至リナラズヤ且夫 ヲ得ズトイヘドモ已ニ前條ニ陳述スル如キ手順ニ達セルヲ以テ今日 曲改良ノ一擧ハ萬ニ一経費ノ目途立難キ節ハ不得止之ヲ廢停セザ ニ交付セラレ該俗曲改良ノ基礎ヲ確立スルノ業ヲ助成セラレン事企 スルトコロノ労資ハタヽニ水泡ニ属スルノミナラズナホ再ビ此事業 ハ此俗曲改良ノ成否ニ関スルトコロ多ニ居リ而シテ此改良ノ成否 、情勢ニ就キ之ル論ズレハ益、之ヲ擴充スルトモ之ヲ廢停スルヲ得 ス然ルニ本掛中ニ於テ俗曲改良ノ為ニ要スル準備ハ略整ヒ其人モ ルノ機運ニ到際セリト云ベシ若シ今日此事業ヲ中廢セバ従来消費 ル

本省會計局意見

為メ増費ヲ要スルモノ一ニシテ足ラス然レトモ本省経費素ヨリ限 増費ヲ要スルニ至テハ茲ニ一言セサルヲ得サル者有之抑本省経費 リ且庶務節減ノ御主意ヲ奉軆シ諸般ノ事概ネ節約ヲ旨トシ所弁致シ ナク目下直轄學校等ニ於テ全部若クハ一部分ノ改良進歩ヲ計ランカ ルーモ教育ノ改良進歩ニ関スル事務ヲ所弁スルノ費途ニアラサル 本件俗曲改良ノ趣旨ハ目下頗ル緊要ノ問題ニ可有之候得共為メニ

> 件ノ如キ亦教化上難止次第ニ有之且該掛事務近来頗ル擴張シ経費亦 成居自然増額ノ姿ニ有之是等餘裕アル金額ヲ以テ本案俗曲改良 先チテ解傭スルノ見込ニ相見然ルトキハ其給額金千貳百円ハ理ニ於 實ニ餘裕無之既ニ其學科改良ノ為メ該掛経費ヨリ千円程減額 先以テ十七年度限リ別途御交付相成可然乎 多端ニ赴クノ勢被認候ニ付前年度繰越金ノ内ヨリ操合セ金三百円程 途ニ向ケ候トキハ別ニ増費ヲ要セスシテ計畫ノ方法相立可申乍併本 テ減額シ得ヘキモノナルニ之ヲ他ノ科目ニ流用支弁スヘキ取調ニ相 該掛十七年度経費豫算ヲ審査スルニ従来傭入ノ外國教師ハ同年度 モ有之タル程ニテ到底本案ノ通増額ハ御聞届難相成方ニ被考候將又 居候半該掛経費ニ如是増額相成候儀ハ何分不穏ノミナラス本省経費 手書き

(『音監經伺書類』明治十七年上)

曲を選んで出版したい旨、文部卿に伺いを出している。 で大変興味深い曲集である 可を得ていたが、 の出版は明治二十一年であった。 た。音楽取調掛では改良曲がある程度出そろった明治十七年六月、十五 俗曲改良の成果はまず『筝曲集初編』としてまとめられることとなっ その後採譜者の入念な手直しがあったと思われ、 (巻末の楽譜資料参照)。 英文の前書きがあり、 ただちにその裁 五線譜の和装本

筝曲: 集

絡

テ、 本編ハ、 筝曲ノ 稍階梯ト爲ルベキ者ヲ輯録シタルナリ。 曩ニ音樂取調掛ニ於テ査定セシ、 本邦 俗 曲 中二 就

本編ハ、

多ク舊箏曲中ノ佳良ナル者ヲ選録スト雖

モ

其 河調

本編歌詞ノ改良ニ於ケル、或ハ全文ヲ改作シ、或ハ一部ヲ修正ノス。而シテ全部ノ稍佳ナル者ハ、別ニ潤色ヲ加へズ。曲調ニ於ケス。而シテ全部ノ稍佳ナル者ハ、別ニ潤色ヲ加へズ。曲調ニ於ケス。而シテ全部ノ強當ニ係レリ。 山登松齢、山多喜松調、荒木古童、奥山朝恭等ノ擔當ニ係レリ。 一部 大場歌詞ノ選定ハ、該掛員里見義、加部嚴夫ノ擔當ニ係リ、曲本編歌詞ノ選定ハ、該掛員里見義、加部嚴夫ノ擔當ニ係リ、曲本編歌詞ノ改良ニ於ケル、或ハ全文ヲ改作シ、或ハ一部ヲ修正

Price 55 s

COLLECTION

C

JAPANESE KOTO MUSIC

RΥ

Tōkyō Academy of Music,

Japan.

Published by the Department of Education. October, 28th, 1888.

PPEFACE

The present collection consists of those pieces of Japanese popular Koto music which may be deemed suited to serve as first steps to learning the Koto music and which were selected as such by the late Institute of Music.

Though most of the pieces contained in this collection are selected from the better portion of the old Koto music, yet for those words and tunes occurring therein, which are liable to offend the public feelings on account of their vulgarity and meanness, pure and elegant ones have been substituted, thus preventing their baneful effects upon the character.

Even in our old Koto music, there has not been wanting what may be called musical notation, yet there was none in which both tunes and words were precisely represented by close combinations. Nor has there existed any text in which is indicated the order of learning the music, as considered with due regard to the graduation from the simpler and easier to the more complex and difficult. The present collection aims at supplementing these deficiencies.

present collection aims at supplementing these deficiencies.
As to the revisions made in the words, some of the songs have been reconstructed as a whole, while some

The compilation of this work was shared among the following persons under the superintendence and direction of S. Isawa, Director of the late Institute of Music—present Tōkyō Academy of Music—The selection of the words, by Y. SATOMI and I.KABE, belonging to the said Institute, and the selection of the music, by S. Yamase, S. Yamato, S. Yam

Tōkyō, September, Ist. 1888

「音樂ト教育トノ関係」(伊澤修二の論説

長短二音階ノ関係

階ヲ混同セルモノ少許トニ止マレリ此混同ノ一種ハ姑ク之ヲ舎キ單東西其種アリトイヘドモ之ヲ約スルニ長音階ト短音階ト此長短二音結果ヲ来スハ古今ノ史乗ニ徴スルトコロナリ蓋シ音律ノ旋法ハ古今とザルモノヽ如シ然リト雖トモ呂律ノ旋法ニ種々アリ其良否ヲ審察音樂ノ人心ニ感動スル影響ノ大ナル所以ハマタ更ニ喋々スルヲ要

憂鬱ノ資質ヲ成シ無力多病ナル氣骨ヲ求ムベシ而シテ勇健ハ人ノ要 階ニ由テ薫陶ヲ受ケシ者ハヨク勇壮活潑ノ精神ヲ發育シ有德健全ナ 演スル者ハ心性ノ淵底ヨリ歡樂ヲ覺へ其快情發シテ容貌ニ顕ハレン モノハ柔弱憂鬱ニシテ哀情ノ甚ダシキモノトス故ニ長音階ノ樂曲 壯活潑ニシテ其快情實ニ極リナシ之ニ反シテ短音階ノ旋法ニ属スル ル心身ヲ長養スルヲ得マタ幼時短音階ニ由テ教練ヲ受ケシ者ハ柔弱 ニ露ハルトヤ覆ハントスルモ得ベカラザルニ至ル是ヲ以テ幼時長音 ルニ短音階ノ樂曲ヲ演スル者ハ哀情計ラズ悲歎ノ感ヲ催フシ其外貌 ヲ見聞スルモノトイヘトモ知ラス識ラズ亦其快樂ヲ享クルニ至ル而 階的ハ其未進ノ國ニ多シ實ニ此一事ヲ以テモ教育上ニ用フベキ樂曲 者モナホ其教育學中グロートヲ援キ之ヲ辨ズル事詳カナリ且長音階 笛及ビ一切ノ絲樂器ヲ廢シ音階モ心身ノ勇壮ヲ致スニ適セル「フリ 樂器モマタ盡ク之ヲ禁セリ即チ四絃琴、立琴、牧羊笛ノミヲ用ヒ構 メン事ヲ避クル所以ナリ希臘ノプラトハ則チ國人ヲシテ強豪ナラシ ヲ棄ツ是其子弟ヲシテ勇偉快活ナラシメン事ヲ期シ鬱閉無力ナラシ スルトコロニシテ柔病ハ人ノ免カレントスルトコロノモノナリ是故 ニ長短音階ノ得失利害ヲ照査スルニ長音階ノ旋法ニ属スル樂曲 古製ノモノニ属セリ故ニ長音階製ノ樂曲ハ文教最進ノ國ニ多ク短音 ージアン」ノ如キモノヽミヲ用ヒタリペインノ如キ音樂ヲ知ラザル メントノ熱心ヨリ啻ニ婉柔ナル樂曲ヲ禁セシノミナラズナホ此類ノ 二歐米ノ各國其唱歌ヲ學校教科ニ充ツルヤ皆此長音階ヲ採テ短音階 ノモノニシテ理論ヨリスルモ

實地ヨリスルモ教育上ニ於テハ此音階 ハ東邦ニ於テモ固ヨリ之アリトイヘドモ西邦ニ於テハ實ニ近世表出 ノ優レルニ若クモノナシ短音階ハ古代ノモノニシテ樂曲ニテハ益 ハ勇

164